項番	ご意見など	回答
1	オープンアクセスモニタリングは各機関では必ずしも必要ではないと感じたのですが、正しいでしょうか? あるいは、今後、例えば大学機関別認証評価などでオープンアクセス達成率などが評価項目に入るようなことがあり得るのでしょうか?	オープンアクセス状況のモニタリングは、すべての研究機関で必ずしも実施する必要があるわけではありません。これは各機関の判断に委ねられており、必要に応じて実施していただくものと認識しています。 大学機関別認証評価等については、NIIが権限をもつことではございませんので、ご回答差し上げられません。恐れ入りますが、ご容赦ください。
2	最終的にリポジトリでの公開は、「即時」に対応することはなくほぼエンバーゴ付き登録になるだろうと思われる。この場合、エンバーゴである旨が記述されているメタデータを以て、公開登録とするのか、エンバーゴ解放以降まで登録数としないのか、モニタリングの機能内容のがあまり理解できなかった。エンバーゴがついている、までは数値的に把握できるようになっているのか。	現在の実装では、CiNii Research機関向けダッシュボードでもJapan Open Science Monitorでも、エンバーゴ解放以降（エンバーゴ期間後）にはじめてオープンアクセス論文としてカウントされます。それまでは、closed（非オープンアクセス論文）としてカウントされます。
3	【質問１】OAアシストは便利そうですが、論文ファインダーは以前の説明会でLensとJ-Stageから文献情報をとってくると聞きました。この2つのデータベースから漏れる文献情報があるとしたら、どういったものがあるでしょうか？OAアシストを過信して漏れてしまう文献が出ないようにしたいです。人力で情報収集する必要がある文献を教えてください。 【質問２】CiNii Research機関向けダッシュボードで得られる指標は自機関の発展のために利用するためだけのものでしょうか？いずれは政府や文科省が各大学や各機関の状況把握や資金配分の基礎資料や参考資料にしたりするのでしょうか？ 【要望１】CiNii Research機関向けダッシュボードで正確な統計を得るために、機関リポジトリの登録・入力の必須項目や入力方法、注意点をまとめたマニュアルを作成してほしいです。	【質問１】カバーできてないジャーナルの一覧を事前に作成できればよいのですが、ジャーナルの母集団を定義することが難しく、そうした一覧を作成できていません。そのため、業績報告書等との比較にもとづいて機関独自の一覧を作成いただき、他の文献データベースで注視いただくしかないと考えております。 【質問２】CiNii Research機関向けダッシュボードは、基本的に各研究機関が自機関でのオープンサイエンスの発展のために利用することを想定しています。政府や文部科学省の今後の方針や取り組みについては、弊所はお答えすることができません。一方、各研究機関がCiNii Research機関向けダッシュボードのデータに基づいて、政府等にオープンアクセス状況を報告するということは考えられます。 【要望１】ご要望をお寄せいただき、ありがとうございます。マニュアルの作成を進めていく所存です。
4	「研究データ」「根拠データ」にかかる機関リポジトリでの取り扱いについて、下記の取り扱いを推奨されていると思います。 ・「研究データ」として、個別の１アイテムとして登録 ＝CiNii Researchでは、研究データとして登録 ・論文を公開する主アイテムの一部として、「根拠データ」のファイルを付属する形で公開 ＝CiNii Researchでは、研究データとしての収録は行わない 上記の対応を標準とすると、即時OA対応として研究データを何件登録したのか、研究データの即時OA率の捕捉には使えないのではないか、というところの対応について疑問が解消されませんでした。 また、OAアシスト機能で表示されるAPCの価格はいつのもので、出版社のAPC情報が更新されるたびにOAアシスト機能に反映されるのでしょうか？ 併せて、すでに課題として挙げられていましたが、ダッシュボードのOA率にてJaLC由来の論文が捕捉されないのであれば、今時点としては活用できる機能とは言えないように思いました。	「研究データ」「根拠データ」にかかる機関リポジトリでの取り扱い」につきまして、NIIでは特段の推奨は行っておりません。 CiNii Researchでの研究データの収録のされ方は機関リポジトリの登録方式によって変わりますが、その点の説明はこちら（https://support.nii.ac.jp/ja/cir/researchdata_harvest ）をご覧ください。 「研究データを何件登録したのか」の観点が重要となる「研究データ」であれば、独立したアイテムとして機関リポジトリに登録し、論文側との関係情報を記述する方法を選択できます。 なお、「即時OA率の捕捉」につきまして、CiNii Research機関向けダッシュボードは基本的に各研究機関が自機関でのオープンサイエンスの発展のために利用することを想定しており、例えば「『学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針』の実施にあたっての具体的方策」文書に記された「オープンアクセスの実施状況の把握」に直接対応するものではないということをご理解ください。 オープンアクセスに関する指標を算出する際にJaLC由来の論文も対象とできるよう、関係ステークホルダと連携しつつ策を講じていきたいと思います。 APCはOpenAPCのAPIから取得したものをそのまま提示しており、悉皆性や更新頻度という点において万全ではありませんので、そうした前提のもとで利用いただけますと幸いです。
5	OAアシストなどは年末リリースと言っていたと思いますが、こちらは無償でしょうか有償でしょうか	無償となっております。
6	OAアシストツールは有料サービスになるのでしょうか。	直近では有償化する予定はありません。将来における有償化については、今後検討していきたいと考えております。
7	上記デモンストレーションの画面につきまして、自分の手元で、このボタンをクリックしたらこの画面が出てくるのかとか、他との影響のない心配のない状態・環境でいろいろとクリックしてどんな感じなのか試すことは可能でしょうか。	先行利用が終わり、現在改修中ですので、アカウント発行は難しいのですが、オンラインで個別にデモさせていただくことは可能です。ご要望がありましたらご連絡いただけますと幸いです（oa-assist@nii.ac.jp）。
8	機関リポジトリを研究データのストレージとして活用することを想定（あるいは推奨）していると理解しましたが、正しいでしょうか。	想定しております。

9	GakuNin RDM-JAIRO Cloud（GJ）連携機能について、学認経由でJAIRO Cloudにログインした場合、JAIRO Cloud側にアカウントが自動的に作成されていくのでしょうか。その場合、図書館側で自動作成されたJAIRO Cloudのアカウントの管理をする必要があると考えたらよいしょうか。	作成されます。アカウントの管理については、状況をみながら検討していきたいと考えております。
10	科研費等のOA化の対象となる論文を記載した後、1,研究者自らが各メタデータを入力し、論文本体をリポジトリへ投稿し、研究データの公開範囲を定め、リポジトリへ送る。2,図書館が介在してOAアシスト機能を用いながら論文本体及びそのメタデータを公開する。研究データについては、各研究者がメタデータ付きで公開する。3,論文本体及び研究データともに、研究者自らが公開できないので、図書館にお願いして、図書館がメタデータ付きで公開手続きを済ませる。 これらの、各研究者のレベルに応じて、具体的に図書館側がどのような準備をしておけばよいのか、またNIIやJPCOARがどのようなアシスト機能を準備しているのかを詳しく教えてほしいです。 今回のOA化については、科研費等の対象となれば、各大学に対応が求められます。中には、中規模・小規模大学もあり、国立大学と異なり小さな大学図書館は業務委託が進んでいるため、専門的な知識を有する図書館員が少ないのが現状です。そのような状況でも、GakuNin RDMを利用すれば、簡便にOA化に対応できるのがメリットだと思います。研究者が自ら公開が出来ない時のために、図書館側のサポートを考慮されているようですが、正直なところ図書館員も中小規模大学では専門家が少ないという現状を勘案して分かりやすいアシスト機能を開発してください。	機関の事情に応じて研究者主導で履行していくのか、図書館主導で履行していくのかを検討いただくのがよいかと考えております。図書館でのマンパワーの確保が難しい場合、研究者主導で履行していくのがよいかと思います。ただし、メタデータチェックなしのアイテムを自機関のドメインから公開することや、迅速な履行が難しいであろうことを許容する必要があるかと思います。
11	OAアシスト機能についてはずっと本学でも利用できるのではないかと期待しておりました。 今更のことではありますが、OA加速化事業により、各大学が似たような機能を持つものを開発し、もったいないという思いではあります。 各大学によって参照するデータベースは異なるものの、そこを踏まえてNIIが大きなシステムを作ることができたら、節約になったと思います。 また、OAアシスト機能のAM依頼機能がメールでのやり取りなるのは使いにくいように思う。RDMとのやり取りできた方が研究者にとっては負担感がないように思われます。	ご期待いただきありがとうございます。 GakuNin RDMによるAM（著者最終稿）取得はとても省力的かと思うのですが、研究者によるGakuNin RDMの利用が前提となり、現状では先進的過ぎる可能性があります。ですので、GakuNin RDMの利用が定着した頃に開発を検討したいと考えております。
12	OAアシスト機能については、いつ利用できるのか楽しみです。	年度内にリリースできるよう開発を進めております。
13	現状ではIRDB からCiNii Research に取り込まれるのは「本文あり」のみのようですが、将来は「メタデータのみ」でも取り込まれるようになるのでしょうか。	メタデータのみのIRDBのレコードの取り込みについては検討中です。
14	IRDBへのハーベストは、機関リポジトリ内に本文ファイルがあることが条件になっているかと思います。研究データの機関リポジトリ登録に際し、クラウド上などリポジトリ外に保存している研究データへのURLリンクを張る形でリポジトリ登録した場合、IRDBには採録されない、という認識です。 研究データのデータ容量や種類によって、上記のような登録ケースは多く出るものと思います。そのようなことを加味すると、IRDBへの研究データの採録やこれを元にする形で改修検討されているダッシュボード含め、研究データのOA捕捉には不足になるか、別の対処方法を考えることになる（eRad改修による対応？）と思われます。 国のほうでもeRad改修によるOA率の捕捉を検討しているはずで、全体像としてどうすべきなのか、見えない部分が非常に大きいです。	IRDBのハーベストについては以下のとおりとなっています。 1.本文ファイルのないアイテムでもIRDBに連携することは可能です。 JPCOARスキーマで必須とされているメタデータ項目を満たしていれば、IRDBへの連携対象となります。 （ref. JPCOARスキーマガイドライン：https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/schema） なお、IRDBから先のCiNiiやJaLCに連携するためには本文ファイルが必須になります。 （ref. IRDBサポートサイト：https://support.irdb.nii.ac.jp/ja/harvest/jpcoar/dataprovide_jalc、データ連携-JaLC、データ連携-CiNii Research：https://support.irdb.nii.ac.jp/ja/harvest/jpcoar/dataprovide_ciniir） 2. また、本文ファイルがあったとして、それは機関リポジトリ内にない状態でも、IRDBに連携することは可能です。本文ファイルの所在を示すURIをメタデータ（JPCOARスキーマの「ファイル情報 本文URL」項目）に記載しておけば問題ありません。